

平成 27 年度 新発田市社会科部 活動報告

部長 佐野 亮太

1 研究主題 資料を効果的に活用した思考力・判断力・表現力を高める授業の在り方

2 研究の概要

4月9日(木) 第1回専門部会 役員選出、研究テーマ決定、活動計画立案

6月8日(月) 第2回専門部会 講演会(会場:外ヶ輪小学校)

演題「楽しく力がつく社会科授業」

講師:新潟市立総合教育センター 津野 治彦 様

11月2日(月) 第3回専門部会 授業研修(会場:東豊小学校)

3年社会科「店で働く人と仕事」

授業者 東豊小学校 五十嵐 俊一 教諭

指導者 新潟市立総合教育センター 津野 治彦 様

3 研究の実際

(1) 講演「楽しく力がつく社会科授業」

児童が楽しみながら力をつけていく授業のポイントとして授業づくりに大切な3つの要素を教えていただいた。

1 少しの工夫で基礎的な知識・技能を楽しく習得

2 何を教えるかを明確にしてシンプルな授業

3 学習活動のポイントをもとに分かりやすい授業

以上の点をグラフや資料の読み取らせ方や学習指導要領と概念の関係性、学習問題の作り方を11月の授業研修で行う3年生「店で働く人と仕事」単元の内容と関連させて解説していただいた。確かな実践に裏付けられたお話から、社会科の授業づくりの神髄を学ぶことができた。

(2) 授業研修 3年社会科「店で働く人と仕事」

本時は、13時間の単元の中の2時間目で、児童が学習問題をもつ学習であった。

導入で資料を配付し、資料から読み取った情報から本時では、コンビニエンスストアを扱うことを確認した。その後、コンビニエンスストアのよさを話し合い、児童が気付かない店の工夫について授業者が補足説明を行った。

本時後半では、1時間目に行った買い物調べの結果を提示した。本時でコンビニエンスストアのよさを考えていた児童は、校区内のスーパーマーケットが圧倒的に多い事実を知り驚くとともに「なんで家の方はスーパーマーケットで買い物をするのだろう」という学習問題をもつことができた。

指導者の津野治彦様からは、学習問題の設定には「ズレを感じさせること」「この考えを全体に広げること」が重要であることをご自身の実践をもとにして指導していただいた。



4 成果と課題

11月の授業研修と関連した講演をしていただいたことで、部員全員が統一した視点で研修を進めることができた。また協議会では津野先生の発案で本時の展開案を拡大したものをもとにしてグループ協議をすることで部員一人一人が社会科授業のあり方について考えることができた。